

平成30年度 姉妹都市交流「学校新聞特派員」

学校新聞特派員報告書



<野口雨情の生家前にて>

平成30年8月2日(木)～3日(金)

派遣地 茨城県北茨城市

中野市立南宮中学校

北茨城市の文化について

1 六角堂と岡倉天心

六角堂は、茨城県北茨城市大津町五浦にある。近代日本美術の発展に大きな功績を残した岡倉天心の住居敷地の一角、太平洋に張り出した岩盤の上に、天心の思索の場として自身の設計により建てられ、「観瀾亭」と名づけられた赤い六角形の建造物です。また、景勝地・五浦海岸の中でも素晴らしい景色を眺められる所に建っていて、朱色の建物と青い海、白い波の色合いは、まるで一枚の絵画のようです。天心旧宅などの一部として、国の登録記念物に登録され、天心による六角堂は、国の登録有形文化財に登録されていました。しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災による津波の直撃を受け、土台のみを残して姿を消しましたが、再建され、2012年4月28日より一般公開されています。

岡倉天心(1863-1913)は、急激な西洋化の荒波が押し寄せた明治という時代の中で、日本の伝統美術の優れた価値を認め、美術行政家、美術運動家として近代日本美術の発展に大きな功績を残しました。その活動には、日本画改革運動や古美術品の保存、東京美術学校の創立、ポストン美術館中国・日本美術部長就任など、目を見張るものがあります。また、天心は自筆の英文著作『The Book of Tea (茶の本)』などを通して、東洋や日本の美術・文化を欧米に積極的に紹介するなど、国際的な視野に立って活動しました。



<六角堂>



<岡倉天心>

2 御船祭について

北茨城市大津町に伝わる「常陸大津の御船祭」があります。その歴史は古く、神社創建後「潮出お浜下り」として始まったと言われていました。全国でも珍しい船の陸上渡御で、地元の佐波波地祇(さわわらぎ)神社の大漁と海上安全を願って行われる5年に1度の大祭です。また、みこしを載せた「神船」は、長さ15メートル、幅3.6メートル、総重量8トン。船胴は白色を基調に大津漁港で水揚げされる海の幸などが描かれ、船首には穴をふさいで船を救ったという故事からエイが配置されています。

船には神官や独特の御船歌を歌う水主(かこ)ら、約40人が乗り込みます。両舷に取り付いた人が船を大きく左右に揺らし、引き手が一斉に引いてソロバンと呼ばれる井桁状に組んだ木材の上を滑走します。また、船が勢いよく進むと、木枠と船底の摩擦でソロバンの焦げたようなニオイが出たり船尾から白い煙が上がったりします。さらに船の横揺れが激しく、周りの建物を壊してしまうこともあるようです。会場には県内外から15万人の観光客らが詰め掛けるほど迫力のある祭で、町中を賑わわせ、観衆から歓声と拍手が上がります。



<御船祭の船>



<御船祭の様子>



<ソロバン>

観光施設と東日本大震災

1 観光施設

北茨城市には、“六角堂”や“野口雨情記念館”、“二ツ島海水浴場”など、たくさんの観光施設があります。六角堂は、近代日本美術の発展に大きな功績を残した岡倉天心の住居敷地の一角、太平洋に張り出した岩盤の上に、天心自身の設計によって建てられ、「観瀾亭」と名づけられた赤い六角形の堂が建っています。野口雨情記念館（北茨城市歴史民俗資料館）は、北茨城市に生まれ日本三大童謡詩人の一人とされる野口雨情の偉業を顕彰し後世に伝えるために開館されました。そこでは、雨情の作品や書、著作などが展示してあります。さらに、北茨城市の特色を示す民俗、文化財あるいは歴史の流れを裏づける遺物、文書等の歴史資料を保存、展示し、郷土の歴史と文化に対する知識と理解を深め文化の振興を図ることも目的としています。

特に二ツ島海水浴場は、長野県にはない太平洋の海で、とても広く波が大きいです。そして砂浜は、白くきれいな砂で、とてもやわらかく優しいさわり心地です。右の写真にもあるように、二ツ島海水浴場からは二ツ島という島があり、それは、写真の側に見える岩肌からなる島です。この辺りの飲食店やホテルには、二ツ島海岸が見えるテラスや露天風呂などがあります。



六角堂

2012年に再建された。現在は茨城大学が管理している。



二ツ島海岸

太平洋に面している。岩肌からなる二ツ島がある。



2 東日本大震災

北茨城市は、3月11日の東日本大震災で、震度6弱の大きな揺れと津波に襲われました。

震度6弱の本震は、長時間激しく揺れ、本震がきてから一時間足らずの間に、マグニチュード7の強い余震が立て続けに起こりました。本震がきてから平成24年3月31日までに、震度4を超える余震が245回観測されました。津波では、最大4.0メートルの津波が北茨城市を襲いました。

“六角堂”は、建物を覆ってしまうほどの津波で土台部分以外全てが流されました。“二ツ島”は、大きな揺れと津波により、上部が崩落しました。そして、震災前にあった島の上部にある樹林を失い、二ツ島の高さが、2/3になってしまいました。北茨城市では、いろいろな所に津波到達点が表示されていて“よう・そろー（北茨城市漁業歴史資料館という施設）”では、約2.0メートルの津波が観測されました。



北茨城市を津波が襲った時の様子



津波で土台部分以外が流された六角堂



よう・そろーの津波到達点



野口雨情と中山晋平の関わり

1 野口雨情と中山晋平の紹介

野口雨情（1882 - 1945）

明治から昭和にかけて活躍した作詞家。

茨城県多賀郡磯原村（現在の北茨城市磯原）

に生まれ、大学時代から詩を出す。



中山晋平（1887 - 1952）

数々の名曲を出した作曲家。

長野県下高井郡新野村（現中野市）

に生まれる。



2 人による歌曲（代表曲）

- ・十五夜お月さん ・シャボン玉 ・七つの子 ・雨降りお月さん
- ・赤い靴 ・波浮の港 ・青い眼の人形 ・船頭小唄 …など

2 野口雨情生家

野口雨情生家は、太平洋に面する海岸に程近い場所にある。磯原の海を望むように建つ雨情の生家は「観海亭」と呼ばれ、今でも多くの人々が訪れる。建物は、木造で、当時の雰囲気を感じさせる。家は緑に囲まれており、晋平生家とも似ていた。生家の入り口には俳句箱が設置されている。晋平の故郷である中野市での中山晋平記念音楽賞のように、北茨城市でも、市が中心になって、詩の文化が大切に今でも人々に根強く残っている。二人の暮らした場所は内陸と沿岸で全く違うのに、文化や雰囲気は浸透している。



<俳句ポスト>

3 歌とこれから

野口雨情と中山晋平はとても貴重な関係だった。「雨情の詩が夫のような存在ならば、晋平の曲は妻のように歌詞に寄り添い引き立てていた」と、雨情の孫にあたる不二子さんは話していた。それを証明するように、今でもいくつもの歌曲が全国の人に認知され、親しまれ、歌われている。

中野市と北茨城市は晋平と雨情の縁で音楽交流都市になっている。北茨城市の住民からも、もっと音楽を通じて交流を深めたいという声が出ている。それだけ雨情と晋平とのつながりは深く、二人が築き上げてきた文化は大切にされ、多くの人々の心に残っている。



<野口雨情生家>

姉妹都市交流を終えて

南宮中学校 星野杏樹

1 磯原中学校について

南宮中とは違うところがいっぱいありました。例えば、毎朝、ランニングからスタートするところや、校長先生の卒業式まであって、びっくりしました。その中でも1番びっくりしたことは、廊下がないことです。なので、教室を移動するときは、ベランダのようなところを歩いて移動するので、雨が降っているときは、濡れてしまったりするそうです。また、廊下が無いので掲示物が貼れず、外に貼ってありました。違うところもたくさんありましたが、南宮中と似ているところもありました。例えば、クラスマッチがあったり、南宮中の蒼龍祭と同じように、楓祭という文化祭もあるそうです。そこでは、合唱コンクールがあり、南宮中でも音楽会をしていて、音楽のつながり＝野口雨情さんと、中山晋平さんのつながりが関係しているのかなと思いました。また、吹奏楽部の演奏も聞かせて頂いたり、歓迎会では、茨城いきいき夢国体ダンスというダンスも踊ってくださり一緒に手拍子をしたりして盛り上がりました。



<部活見学の様子>



<茨城いきいき夢国体ダンス>

2 市内めぐりについて

市内めぐりでは、中野市には無いものをたくさん見ることができました。まずは、海です。長野県は、海に隣接していないので、めったに見ることができません。その海を体験することができ、すごく感動しました。また、海に立っている旗の意味も教えて頂きました。青色は泳いでよし、黄色は気を付けて泳いでよし、赤は泳いじゃダメ、だそうです。今度海に行ったときは注意して見てみたいです。六角堂ではたまたま職場体験をしていた中学生に会い途中まで一緒に行動しました。その六角堂では、津波の話が、とても印象に残っています。「東日本大震災の時に10m以上の津波にあい、一度流されてしまった。」という話を聞いて、東日本大震災は本当に大きな被害をもたらしたのだと改めて考えさせられました。



<六角堂>



<陶芸体験>

また、陶芸体験もさせて頂きました。教えてくださる先生を見ると、あまり難しそうには見えなかったのですが、実際にやってみると想像している形には、ならず、1つ目を作るのにとても時間がかかってしまいましたが、楽しくて結局4つも作ってしまいました。このように楽しかったこともたくさんありますが、東日本大震災の影響は大きく、今も様々な所に津波の高さを示すテープが貼ってあり、被害の大きさを物語っていました。

姉妹都市交流を終えて

南宮中学校 紅谷知里

1 東日本大震災について

1泊2日の北茨城市との交流では、いろいろな場面で東日本大震災の津波の怖さを感じました。始めに行った二ツ島海水浴場の「二ツ島」では、大きな揺れと津波により上部が崩壊したことを知り、その次に行った「六角堂」は、津波で土台部分以外全てが流されたことを知り、津波の勢いや強さを感じ、さらに被害の大きさを感じました。そして、2日目の最後に行った「よう・そろー」では、東日本大震災に関する資料が展示されていて、そこでは7年前の3月11日の震災が来る前と後の写真、津波が北茨城市をのみこむ様子が映された動画、避難所生活などの写真がスライドショーになって流されていました。それを見ている時は、何も言葉が出なく、ただ呆然としてしまいました。どんどん迫ってくる津波は、ゴォーゴォーと音を立てながら止まることなく迫ってくるという感じで、映像を見ているだけで鳥肌が立ち、恐怖に襲われました。そして、津波が来た後の北茨城市の写真が写しだされた時、涙が出ました。一言で表すとグチャグチャです。何もかもが津波で流され、建物は壊れ、がれきが山のように積みあがっていました。私たちが見学した場所では所々に津波到達点を示されていて、中でも「よう・そろー」の津波到達点は、大人の人を丸のみしてしまうほどの高さでした。津波は、自分の胸の高さまできてしまうと、もう助からないという話を聞きました。私たちが訪れた北茨城市でも、5名の方がお亡くなりになられたそうです。海は夏にはとても楽しい場所になり、年中無休でとても景色のきれいな場所だけど、地震が来た時には最も恐ろしい場所になるということを今回の交流で感じました。さらに、実際に地震や津波の被害にあったその場へ行って改めて震災の被害の大きさや怖さを学ぶことができました。現在の町の様子は、津波で流されてきた物などは何もなく、地震が来る前の北茨城市に戻っていました。六角堂は再建され、町もきれいになっていました。市の職員の方や施設の方々のお話を聞く中で、震災の形は消えても悲しさや恐怖は心の中から消えないのだと感じました。



<震災の被害の様子>

2 磯原中学校との交流

2日目に北茨城市の磯原中学校と交流しました。とても盛大に歓迎してもらって、来年には茨城国体があるということで、私たちが訪れた日に部活動で学校に来ていた生徒の皆さんが、国体ダンスをおどってくれました。その後の部活動見学では、吹奏楽部の皆さんが演奏をしてくれました。3年生が引退してしまったということで、1、2年生の演奏だったのですが、すごく迫力があってすごかったです。校内めぐりでは、磯原中学校には廊下がなく、移動教室などは、いくら雨が降っていても風が吹いていてもベランダを通るということに驚きました。



その後、お互いの学校紹介を行い、生徒会活動について意見交換をしました。お互いの発表後には質問をしました。その中で、同じ中学生の生徒会活動でも異なる点がいくつもあり、1日の生活リズム(日課)も違うなあと感じました。今回の交流で参考になったことを今後の生活に生かしていきたいです。

姉妹都市交流を終えて

南宮中学校 滝澤 慎之介

今回は、中野市の学校新聞特派員として、北茨城市に行ってきました。

とても充実した2日間で、その中で、姉妹都市の良いところ、中野市との共通点・相違点を感じ取ることができました。

1 1日目 市内見学

1日目の午前中は電車で北茨城市へ移動しました。電車でこれだけの距離を移動したのは初めてなので、楽しかったです。まず僕たちは、野口雨情生家に向かいました。野口雨情は今回僕が、テーマとして決めた人なので、自分の中でも緊張感がありましたが、案内していただいた不二子さんのとてもわかりやすい説明で野口雨情のこと、この町の歌への取り組みも知ることが出来ました。



その後、六角堂に行きました。建物のある場所は海につきだして、そこからは緑に囲まれた、美しい景色が見えました。海からは気持ちいい風が吹き中野とはまた違う自然を感じることが出来ました。左の写真は、職場体験で来ていた中学生と撮ったものです。1日目は北茨城市の豊かな自然、大切な文化を十二分に感じ取ることができました。

2 2日目 学校交流

2日目は磯原中学校との交流をしました。まず驚いたのは、生徒会の仕組みが全く異なっていたことです。磯原中学は会長の下に本部会となっていて、副会長がいませんでした。また、南宮中にはない委員会が磯原中にあり、逆に磯原中にはない委員会が南宮中にあるなど、新鮮な体験でした。さらに、磯原中学校は奉仕活動も積極的に行っており、今年は岡山県への義援金を集めているなど、とても参考になりました。また、学校案内をしてもらっているときもむこうから気さくに話しかけてくれて楽しい思い出になりました。



最後に、今回はこのような機会をいただき、ありがとうございました。

<参考資料>

1日目：市内巡り



<野口雨情の生家>



<ニツ島海水浴場>



<六角堂>



<スズキコージ展>



<天心記念美術館>



<陶芸教室>



<からくり時計>

1日目は、野口雨情の生家や六角堂、天心記念美術館などの市内巡りをしました。さらに陶芸体験では、各自がお皿や湯のみなどを制作しました。出来上がりが楽しみです！

2日目は、磯原中学校と交流をしました。吹奏楽部の演奏を聞いたり部活動見学をしたりしました。さらにお互いの学校紹介を行い、生徒会活動について意見交換をしました！

2日目：磯原中学校と交流



<記念品贈呈>



<吹奏楽部の演奏>



<部活動見学>



<学校紹介・意見交換>



<学校紹介・意見交換>



<磯原中学校で集合写真>